

〔論説〕

## 看護学分野

上泉 和子<sup>1)</sup>

### 1. 看護学分野の領域構成と特色

#### (1) 博士前期課程

看護学領域博士前期課程では、社会的要請である質の高い看護の創造や高度先端医療への対応などに向けて、少子化、高齢社会などの特に社会変化への対応を求められる領域、ますます高度化・複雑化する高度医療への対応を求められる領域、及びヘルスケアサービスの創造と変革を担う人材を育成する領域、看護学の基礎科学を探究する領域を設け、高度専門職業人の育成をめざすことを目的としています。

開設当初は、看護教育・管理学領域《看護教育、看護管理》、母子家族看護学領域《周産母子看護学、小児家族看護学》、生活支援看護学領域、クリティカルケア看護学領域の4領域で構成していましたが、年々領域の拡充が図られ、現在では、看護教育学領域、看護基礎科学領域、看護マネジメント領域、高齢者・リハビリテーション看護学領域、小児家族看護学領域、周産母子看護学領域、クリティカルケア看護学領域の7領域に拡大してきました。

看護学分野の特色は専門看護師（CNS）コースを設けていることで、専門分野は小児看護、母性看護、急性・重症患者看護の3分野が教育機関として認定されています。専門科目は特論、演習、実習、課題研究を設けると共に、CNSコースに必要な共通科目として、看護コンサルテーション、看護管理学、看護倫理学、看護理論特論、看護教育学、の5科目を設け、豊富な選択科目を構

成しています。さらに博士前期課程履修者全員の必修科目として、研究方法論、保健福祉政策学特論を設け、研究者、保健医療福祉の高度実践者として幅広い知見をえられるよう配慮しています。専門看護師コースでは、実習（6単位）と課題研究（2単位）を設けています。

他のコースでは独立して研究ができるよう研究者研究計画書の作成から論文完成まで2年間かけて取り組みます。また講義に加え演習等を設けて、高度実践家の育成をめざします。

修了を認定されれば、修士（健康科学又は看護学）の学位が授与されますが、看護学分野を修了した場合、修士号は「修士（看護学）」となります。

#### (2) 博士後期課程

博士後期課程では、深い学識や豊かな看護実践能力を基盤として、看護学の構築や自立して研究活動を行う能力を備えた研究者、高度専門職者、およびそれらを育てる教育者の育成をめざします。授業科目は、看護マネジメント関連、母子看護学関連、生活支援関連の各専門研究領域を設定し、博士論文作成に取り組みます。学位は博士（健康科学）の学位が授与されます。

### 2. 各領域と担当教員の紹介

看護学分野における本学担当教員は8名で、そのうちの5名は博士後期過程も担当しています。また科目によっては非常勤講師として、関連領域ではわが国の第一

表1 博士前期課程、博士後期課程の看護学分野の主な担当者（20年度）

看護学分野・領域	担当教員（*は非常勤）
看護教育学領域	未開講
看護基礎科学領域	角濱春美、*菱沼典子（聖路加看護大学）
看護マネジメント領域	上泉和子、リボウイツよし子
高齢者・リハビリテーション看護学領域	石鍋圭子、21年度新任者
小児家族看護学領域	中村由美子、*筒井真由美（日本赤十字看護大学）*日沼千尋（東京女子医科大学）、*濱中喜代（東京慈恵会医科大学）
周産母子看護学領域	大井けい子、大関信子、*近藤好枝（慶応義塾大学）*新道幸恵（広島赤十字看護大学）
クリティカルケア看護学領域	深谷智恵子、平尾明美、*中村恵子（札幌市立大学）、*黒田裕子（北里大学）、*寺町純子
共通科目等	*中山洋子（福島県立医科大学看護学部）*山本あい子（兵庫県立大学看護学部） *川村佐和子（聖隷クリストファー大学）*新道幸恵（広島赤十字看護大学） * Pamela Minarik（サミュエルメリット大学、米国） その他

#### 1) 青森県立保健大学大学院健康科学研究科健康科学専攻看護学分野

Department of Nursing, Health Science Major, Aomori University of Health and Welfare Graduate School of Health Sciences

人者である学外講師をお招きし質の高いコースワークを設定しています。博士前期課程専門看護師コースの共通科目として設けている看護コンサルテーション、専門看護師論の両科目では、開学当初本学の教授でありまた自らも CNS である Dr. Pamela Minarik 教授（サミュエルメリット大学, 米国）に集中講義をお願いしています。表に博士前期課程、博士後期課程の担当者、非常勤講師を紹介します。

### 3. 修了生の背景と動向

看護学分野は、博士前期課程、後期課程ともに研究科の分野としては修了生を最も多く排出しています。社会人入学が多く、修了後臨床で活躍している人が多いのも看護学分野の特徴です。現在修了者のうち3名が専門看護師の認定を受けています。博士前期課程は看護学分野の中に領域がありますので、その領域毎の修了生の数を下記に示します。博士後期課程は分野のみですので、一括して修了者数を記載しました。

表2 看護学分野の修了者数

領域	修了者数	領域	修了者数
・看護教育学領域（看護教育・管理学領域／看護教育コース含む）	5	・小児家族看護学領域（母子家族看護学領域・小児を含む）：論文コース	5
・看護マネジメント領域（看護教育・管理学領域／看護管理コース含む）	13	・小児家族看護学領域（母子家族看護学領域・小児を含む）：CNS コース	0
・高齢者リハビリテーション領域（生活支援看護学領域を含む）	10	・周産母子看護学領域（母子家族看護学領域・周産母子含む）：論文コース	1
・看護基礎看護学領域	0	・周産母子看護学領域（母子家族看護学領域・周産母子含む）：CNS コース	4
・クリティカルケア看護学領域：論文コース	2	博士前期課程看護学分野修了者数（研究科合計）	44 (84)
・クリティカルケア看護学領域：CNS コース	4	博士後期課程看護学分野修了者数（研究科合計）	3 (5)

### 4. 看護学分野の展望

看護学分野は時代のニーズにあった人材育成をめざし、専門領域の変更、拡大をはかってきました。今後は青森県の大きな課題であるがん医療の向上に貢献すべく、「がん看護」領域の人材育成も図っていきたいと思っています。大学、臨床、教育、行政、などと密接に連携をとりながら、高度実践家、教育者、研究者の育成を目指したいと思います。